

スコーレ・マスターズ通信

第26号
平成20年5月26日

新年度マスターズ研修が始動！ 改編、新メニューで装いも新たに



首都圏で開催しているマスターズ研修が、4月から改編され、新メニューにてスタートしました。

今までの研修は、「人生学」と「心身開発トレーニング」

をワンセットにし、年齢区分(54歳)でシニアコースとミドルコースに分け、毎月1回実施していました。しかし、心身開発トレーニングのメニューが異なるため、一部のトレーニングが受講できない、という問題がありました。

今年度からは、研修コースの年齢区分をやめ、コースを「人生学コース」と「心身開発トレーニングコース」とに、完全に分離させることにしました。

「人生学コース」は、マスターズ講師養成講座受講メンバーが交替で講師を務めた後、永池会長の講話、という中味の濃い研修です。初回の4月20日は27名が参加、いつも20人前後でしたので、各テーブル

は3人掛けとなり、研修室が狭く感じられました。

一方、「心身開発コース」ではリラクゼーション禅、ボイストレーニング、朗読練習と盛りだくさんのトレーニングメニューを用意。

4月6日の第一回目は、今までのコースで受講できなかったトレーニングについて、「発声練習を久しぶりに体験し、



気持ちよかった」「座禅の警策で打たれて、シャキッとしました」などの声が聞かれました。

マスターズ会員の研修ニーズに的確に応えた改編ですが、まだスタートしたばかりです。さらに研修内容を充実させるためにも、参加者の皆さんの意見・提言をお待ちしています。

今後の課題は、首都圏に限定された「マスターズ研修」を、首都圏以外でも開催できるようになることですが、全国版研修は、現在のところ、箱根の宿泊研修時のみに止まっています。実現のためには、講師やトレーナーの養成と、マスターズ会員数の増加が、キーポイントとなります。(小俣 富雄)

平成20年度会員総会・宿泊研修 奮ってご参加下さい

今年のマスターズ会員総会・宿泊研修は例年のとおり1泊2日で右記要綱に従って開催されます。

まだ、参加のお申し込みをされていない方は是非お申し込みください。お申し込み方法は右記の開催要綱を参照ください。

今年の研修概要は次のとおりです。(参加予定の方には別途詳細をご連絡します)

14日(土)は研修として、リラクゼーション禅と発声練習を行います。その後、部屋別研修を経て入浴時間をとった後、懇親会となります。

15日(日)は早朝研修、広間座談を行い、朝食後、研修を開催します。

研修では昨年と同じ分科会方式で討議を行います。今年は親との絆・子どもとの絆・夫婦の絆・父親としての役割について討議しますので、前もって検討いただくのもよいと思います。

昨年の分科会での討議を踏まえて募集した事例を危機管理・対応事例集2「家計・経済」「親・兄弟姉妹・付き合い」としてまとめましたので当

日配布いたします(500円)。今年の分科会の討議をもとにして事例を募集し、危機管理・対応事例集3を発行の予定です。

分科会の後、マスターズ会員総会を開催、新年度の活動方針等を討議決定します。

開催要綱

日 時：平成20年6月14日(土)～15日(日)
13:00 会場ホテル集合

会 場：箱根湯本ホテル 別館 神奈川県箱根町
湯本茶屋184 TEL(0460)85-8800 (代)

参 加 費：首都圏在住者 一律 15,000円
上記以外 一律 10,000円

(交通費 5,000円 補助分相殺)
(参加費は当日お支払いいただきます)

申込方法：協会・本部 TEL(042)728-7951

持 ち 物：洗面道具・着替・筆記用具・トレーニングウェア(軽装でも可)・その他必要と思われる物。

研修プログラム

14日(土) 13:20 オリエンテーション 研修
(心身開発トレーニング) 部屋別研修(自己紹介)
懇親会

15日(日) 5:30 早朝研修 広間座談 朝食
研修 総会 記念撮影 11:00 解散。

投稿コーナー

仕事とスコール

青葉・都築ブロック 秋元一宏



次期砕氷艦「しらせ」の進水式風景

4月中旬吉日に次期砕氷艦(通称:南極観測船)「しらせ」の進水式が京都府舞鶴市の造船所で行われました。本艦の設計に携わって約6年、途中の約2年を

舞鶴へ単身赴任して設計に関わって来ました。

次期砕氷艦は、次のような特徴があります。

表面にステンレス鋼を張り有害な塗装を止め且つ摩擦抵抗を少なくして燃費向上を目指す。

氷海での砕氷時に海水を撒いて氷の上に積もった雪を溶かして摩擦抵抗を減らし砕氷能力を高めひいては燃費向上を目指す。

艦内や南極基地で発生したゴミ(生ゴミ、ペットボトル等の生活廃棄物)を艦内で処理して外には出さない。

艦内で発生した汚物水は艦内で処理殺菌して艦外へ排出する。という「エコシップ」です。

その他にもコンテナ多用による荷役時間の短縮や艦内生活を過ごし易くするための色々な手段が考えられています。

この艦は年末から性能試験を行い来年5月に就役、その後訓練を行い来年末に南極へ向けて処女航海に出ます。南極では-25の最悪な環境に耐え、輸送・観測の任務を全うしてくれると思います。

長い会社勤めで初めて経験した単身赴任の2年間で私自身は「浦島太郎」のような存在になっており、我が家に戻ってからは家庭内で浮いた状態となっていました。そんな時に家内より「スコール・マスターズ」を紹介され、精神の安らぎにと思い一大決心で「スコール・マスターズ」の集会に出かけた所、「父親のあるべき姿」「子供との対話」等参考になる点が多く毎月通うようになりました。これにより家内や子供たちとの会話も進む様になりました。これからも家庭円満の秘訣を見出す為に「スコール・マスターズ」に通い、これまでとは違う世界の方々と交流し自分を育てていきたいと思ひます。

夫婦の会話を豊かに

中国地区 岡本達之

「先生、夫婦は話し合いが大事といわれていますが、私たち夫婦は何も話すことがありません。何を話したらよいのでしょうか?」。この言葉は私がある老人クラブで家庭裁判所での離婚事件について話をしたときに、男性の老人から出た質問でした。



とかく、日本人、特に男性は家庭での会話があまり得意ではありません。夫婦間では改めて話し合わなくても「以心伝心」でわかる、話し合うなんて水臭いとか、夫婦

は一心同体であるとかいわれます。さらに、夫婦間で話し合わなくては理解できないということは本当の夫婦ではないとまでいわれることまであります。

この様に一般に日本の夫婦は会話が少なく、また、中高年になるほどより少なくなる傾向があるといわれます。現代のような情報化の時代で、社会が急激に変化している世の中では、たとえ夫婦といえども価値観や考え方が多様化しており黙ってはお互いに何を考えているか全く分りにくい時代となっています。

会話を多くする工夫を挙げておきます。

夫婦の一方が自分の興味や関心のある話題を一生懸命話すとき、相手はたとえそのことに興味がなくても嫌がらず熱心に聞くことです。相手の言うことをしっかり聞くと、けっこう自分なりに面白さが理解できて話が弾むようになるものです。

また、日常のささいなことも面倒がらずに話し合う習慣をつけることです。

話し合うことでお互いが何を考え、何を思っているかが分ってきます。相手の気持ちが分れば、相手の喜びそうなことを言ったりしたりでき、逆に相手が嫌がりそうなことは言わないし、しないようになります。

これが本当の愛ではないでしょうか。「愛」という字は「心」を「受ける」と書きます。定年後の夫婦で会話の多いほど仲が良いといわれています。会話の頻度がそのまま夫婦の和合度、安定度を示しています。この様に会話こそ夫婦を結ぶ絆の核であり大切なものです。皆さん、どうか会話を豊かにして幸せな夫婦生活を続けようではありませんか。

(筆者は元家裁調停委員)

北澤正昭(京浜・城西) さいたまゴールドシアター 公演「95Kgと97Kgのあいだ」
5月28日(水)~6月5日(木)に出演。
会場: 彩の国さいたま芸術劇場。
演出: 蜷川幸雄。問合せ先: 048-858-5511(劇場)。

会員活動情報

小川哲史(天点窯)(町田・相模) 個展。
6月20日(金)~25日(水)10:00~19:00
会場・ギャラリー五峯: 杉並区下井草
2-40-16 西武新宿線下井草駅下車
問合せ先: 03-3395-9956 (ギャラリー五峯)

連載

父親の役割？

岐阜ブロック 小寺房征

生い立ち

生まれ代わり

昭和19年9月14日終戦1年前に私は生まれました。父親は戦争に行く前に今度生まれてくる子供の名前は男の子だったら房征、女の子だったら房子とつけなさいと言って出征しました。私が生まれてから暫くして公報が来ました。「房市、19年9月14日北支にて戦死す」と在りました。私が生まれた日と父親が亡くなった日とまったく同じ日だったわけです。それから父親の生まれ変わりだねと言われながら育ちました。

9歳の兄、4歳の次兄、乳飲み子の私と、母親と祖母の苦難の生活が始まりました。少しばかりの田畑があり、毎日の食料はたくさんではありませんが、何とか食べ繋ぐだけのものはあり、ひもじい思いはしませんでした。しかし現金の収入はありませんので貧しい家庭でした。

兄は中学を出てすぐに京都の呉服問屋に勤めました。そして年に一回お盆に帰ってくるだけでした。帰ってきた兄を見ても私には何処のおじさんがきたのかと思うだけで隅のほうで小さくなっているだけでした。長兄と思って話をしたのはずっと後になってからでした。次兄も中学を出たらすぐに都会へ出ました。

小学校四年生ごろから自分と言うものが分かりました。この頃に耳が遠いことから、とんちんかんな返事をしてよく笑われたり、父親がいないという事がいじめられたり、馬鹿にされたりしました。このお陰と言うか、馬鹿にされる事も、恥ずかしい事にあっても、耐えることを覚えました。

私も中学生になって、同級生が進学か、就職かと話していましたが、私には関係のないことでした。なぜなら父親がいない上に、長兄も次兄も都会へ出て働いていましたから、母と祖母を置いて私まで都会へ出ることは許されませんでした。私も高校へ行きたかったのです。先生も「小寺、お前は何とか高校へいけないか」と言ってくれましたが、とても都会へいける環境ではありませんでした。父親がいたら高校へも行けたのと思っていた。長兄も次兄もその上、私も出て行ったら、男手がなくなる、祖母も母も私を田舎に残しておきたかったのです。63名の中学の卒業生の中で田舎に残ったのは私一人だけで、非常に悔しい思いをしましたし、父親の不在を恨んだものです。普通なら家をとびだしてしまうところですが、母と祖母を残して出て行く事はできませんでした。

性格

母親と祖母に育てられた影響からか、たくましさとか強気の性格というものがなく、社会とか政治とかについての議論をする等のすべを知りませんでした。父親の厳しさ、父親の内に秘めた逞しさ、やさしさ、美しさ、そういうものが欲しいといつも思っていたのがこの時期でした。

会長の八洲大学講義録『責任感と習慣形成』の中にあるように「自己肯定・他者肯定」「自己肯定・他者否定」「自己否定・他者肯定」「自己否定・他者否定」と言う四つのエゴのうち「自己否定・他者肯定」そのものでした。人格形成が偏っている性格のようで、いつもひねくれた考えを持っていました。自己主張が出来ず、他人の主張に従って生きる、つまり人に良く見られたい思いから、人の主張によって生きる、自分がしたい事より、人が何を求めているかを優先する、引込み思案で、気が小さく、パワーがないこの性格はなかなか直りませんでした。いつも父親がいたらこんな性格にならなかったらと、何とか直したいと、いつも父親がいたらいいな、父親が欲しいなと思っていました。今でもこの性格を引きずっています。

人生学講座

父の影

ただ、父親が欲しいといつも思っていたが、寂しいと言う感じは余りありませんでした。それは母親がいつも父親を前面に出していたからです。朝起きると「お父さんに挨拶に行ってください」と仏壇にお参りさせられました。ご飯を食べる時は「お父さんいただきます」遊びから帰ると「帰った挨拶、寝る前にも「挨拶」、絶えず、絶えず、仏壇にお参りさせられました。もめ事があった時、私が何か欲しいと言った時「お父さんに聞いてくるからね」と母親は絶えず仏壇に向ってましたし「お父さんは立派な人だったよ。村の人にいつも頼りにされていたよ。今あるのはお父さんのお陰だよ」と聞かされて育ちましたから。でも何か心の中に空虚感と言うものが在りました。

小さいうちは母親べったりでしたが、10歳ごろからは父親に惹かれるようになり、父親が必要になってくる。社会のルールも、生きていく術も、仕事に掛ける情熱も、モラルの必要性も、父親から教えて欲しかった。でも、そのとき父親が不在だったら、いや、いても父親としての働きをしていなかったら……。今の家庭は父親がそのような働きをしていないことが多いのではないのでしょうか。その私が「お父さん」とはじめて呼んだのは結婚してからです。家内の父親を「お父さん」と気恥ずかしくもまた、うれしい気持ちで呼んだのを記憶しております。「お父さん」この一言、28年間心の中で叫びつづけてきたのですが、始めて声に出して呼ぶことが出来ました。（つづく）



事務局便り

会員動向

平成19年度末の会員数は360名となりました。目標とした400名には達成しませんでした。期中の新規加入数は72名と過去最高でした。

この原動力となったのが地方組織での増加です。中でも、「東海地区」や「茨城・長野」各ブロックでの増加が目立ち、更には「北海道」ブロックからも、始めて纏まった入会がありました。

ご協力ありがとうございました。

マスターズ刊行物案内

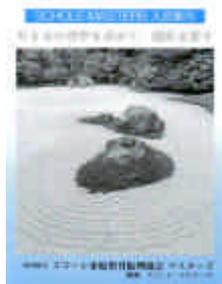
危機管理・対応事例集



『マスターズ会員の対応事例に学ぶ「働き方」と「自己管理」』は宿泊研修の分科会で討議をした項目ごとに事例を募集し、マスターズ会員の生の事例をまとめたものです。発生した事案、それへの対応、その結果をまとめ、永池会長の著書から参考になる箇所を引用しています。

今年の宿泊研修の折に第2集「家計・経済」と「親・兄弟姉妹・付き合い」を発行します(500円)。

SCHOLE MASTERS 入会案内



『生き方の美学を求めて、感性を耕す』はスコール・マスターズに入会を希望される方々にお配りするパンフレットです。マスターズのめざすもの・組織・活動等を紹介しています。マスターズ会員の募集に役立つ案内書となっ

ていますので、ご活用下さい(無料)。

必要な方はいずれもマスターズ事務局にご請求ください。

電話：042-728-7948 FAX：042-728-7953

当面の行事予定

- 6月～9月： 上期マスターズ研修 (本部研修室)
 6月14・15日： マスターズ総会&宿泊研修 (箱根湯本ホテル)
 6月17日： スコールの集い (京王プラザホテル)
 7月19日： 首都圏「生きがい講座」 (渋谷シダックスホール)
 7月27日： 全国一斉・創立記念早朝研修 (各早朝会場)
 7月下旬： マスターズ通信第27号発行 (広報委員会)

青	朱	白	玄
春	夏	秋	冬

久々に「男はつらいよ」シリーズの終わり頃のビデオを観た。学生時代、暇にまかせ三本立の映画館に入ったことに始まり、いつしかファンとなり結果として全作品を観た。見始めた頃は正月と盆の時期、ただただ面白ただけで観ていたが、ある作品でさくら夫婦というか博夫婦が生活しているアパートの部屋でコーヒーを淹れる場面があった。ちょうどその頃自分も同じようなアパート住まいで同じように淹れ始めたこともあってか、少しオーバーな言い方かもしれないが自分と重ね合わせ見るようになった。見るのがしんどい時期もあったが、人間関係、子育て、親子関係など微妙に重なるものがあった。「サザエさん」と違って、お互い同じように年をとっていくことも余計そう感じたのかも知れない。

年をとっていくといえば最近、前期(?)高齢者の人たちがスーパーから少し離れたバス停とか車を置いてある(駐車場以外)場所にショッピングカートを放置していく情景をよく見る。重い荷物を運ぶのにカートを利用することは理解できるが、使ったあとは店に返すということを忘れないで欲しい。お孫さんと一緒に買い物をした時も同じことをするのであろうか。

寅さんの映画では孫の誕生はみられなかったが、シリーズがさらに続いていれば息子満男の結婚、やがて孫の誕生など新たな生活がどのように展開されたのであろうかと思いを巡らすのである。(梶田健二)

週末に1日、早朝研修に出ています。土日は演壇の日。会員の方々から日頃の体験談が語られ、それを共有することで共同学習の場となります。ところが、当初、私は人の話を素直に聞くことができず、恥ずかしながら1時間の演壇を聞き続けることに苦痛を感じていたこともありました。そんな私も、1年近く通ってみる中で、一人一人のお話の中に実に味わい深い、多くの感動があることに気付くようになりました。今では、週末、研修会場に吹く「朝の風」を感じることは、普段の自分の生き方を反省し、リセットする貴重な機会となっています。マスターズ通信の編集に携わるようになって、1年経ちました。編集を通じ、多くの気付きとエネルギーをいただいています。今後とも爽やかな「マスターズの風」をお届けできるように頑張りたいと思います。(白石英樹)

編集：社団法人 スコール家庭教育振興協会
 スコール・マスターズ 広報委員会

発行人：小俣富雄
 〒194-0013 東京都町田市原町田4-7-12
 TEL：042-728-7948
<http://www.schole-masters.org>